

林業経済研究

Vol.57 No.1

林業経済学会2011年春季大会……………2011年春季大会運営大会 1

2011年春季大会論文

〈テーマ：林業経済研究は森林セクターにどう貢献するか—気鋭の研究者はこう考える—〉

マクロ分析なき林業経済学からの脱却に向けて

—木材貿易と森林資源，日本経済の中での林業への資源配分—……………島本美保子 3

林業における資本と土地所有の現段階……………三木敦朗 12

木材生産・流通に影響を与える需要側の変化を追って

—林業経済研究は木材需要の行方をどのように捉えるか—……………坂野上なお 19

自然地域におけるレクリエーション研究の展開と今後の展望……………庄子 康 27

日本のグリーン・ツーリズム研究の動向と今後の方向性

—農村，観光，林業経済の研究レビューから—……………栗栖祐子 37

論文

林地転用等による耕地拡大農家経営の形成過程と課題

—中国内モンゴル自治区通遼市のX村を事例として—……………張 曉航，安 宝権 49

学会記事……………58

2011. 3

林業経済学会

林業経済学会2011年春季大会

2011年春季大会運営委員会

1 日程・会場等

(1) 大会シンポジウム等

日 時：2011年3月28日（月）9時～17時

8：40 開場・受付

9：00 開会

9：10 研究報告（30分×5）

11：40 コメント（15分）

11：55（休憩）

13：00 質疑応答，総合討論（報告者，コメンター）

16：00 定期総会

17：00 閉場

17：15 懇親会（共通教育B棟1階の生協第1食堂）

*時間配分には多少の変更も予想されますことを予めご了承下さい。

*昼の休憩時間が例年よりも短くなっております。また静岡大学近傍には飲食店が少なく，コンビニエンスストア等の商店もないとのこと。大学内の食堂・売店をご利用いただくか予め食事をご用意下さい。

会 場：静岡大学共通教育B棟 B301

大会参加費：社会人1,000円，学生500円

懇親会費：社会人3,500円，学生2,500円

*受付開始から開会までの時間が例年よりも短くなっております。スムーズな受付にご協力下さい。また，参加費・懇親会費もお釣りのないようご注意下さい。

(2) 関連会議

編集委員会 3月26日（土）16：00～17：00 静岡大学共通教育L棟L303

表彰委員会 3月27日（日）12：00～13：00 静岡大学共通教育L棟L301

理事会・評議員会 3月27日（日）13：00～16：00 静岡大学共通教育L棟L301

*会議用教室の使用に当たっては，日本森林学会大会運営委員会本部を訪れ，解錠・施錠を依頼して下さい。

2 シンポジウム概要

統一テーマ：林業経済研究は森林セクターにどう貢献するか—気鋭の研究者はこう考える—

座 長：永田 信（東京大学）

報告とコメント

報告1 島本美保子（法政大学）マクロ分析なき林業経済学からの脱却に向けて—木材貿易と森林資源，日本経済の中での林業への資源配分—

報告2 三木敦朗（信州大学）林業における資本と土地所有の現段階

報告3 坂野上なお（京都大学）木材生産・流通に影響を与える需要側の変化を追って—林業経済研究は木材需要の行方をどのように捉えるか—

報告4 庄子 康（北海道大学）自然地域におけるレクリエーション研究の展開と今後の展望

報告5 栗栖祐子（林業経済研究所）日本のグリーン・ツーリズム研究の動向と今後の方向性—農村，観光，林業経済の研究レビューから—

コメント 山本伸幸（森林総合研究所関西支所）

3 テーマ設定の趣旨

「学会名称・学会誌のあり方等検討特別委員会報告」（2009年3月27日）において、林業経済学会のあるべき方向として「単に政策論ばかりでなく、『理論的バックボーン構築のための原理的考察の深化、実証的データの収集、フィールドワーク、政策過程への洞察など、あらゆる次元での研究をバランスよく行う』こと」とし、「かつて林業経済研究は、地代論の論争、経理学論争、生産力論争など、林業研究を深めた重要な論争があり、それが研究の水準を押し上げた。『50年史』を利用して、立ち消えになってしまった課題、今日取り上げるべき新たな課題などを、現代の視点から議論し直すといった作業が必要なのではないか」と指摘している。他方、「林業経済学会は明確なディシプリンを持たない」のではないかという問題や、「研究・学問としての核を持ちつつも幅を広げること」の必要性にも触れている。

現代において再生可能な資源である森林が評価される一方、森林の有する多面性への認識も深まり、それぞれの立場から森林問題への様々なアプローチが試みられている。このことは研究面でもいえることであり、林業経済研究への期待が高まっていることは紛れもない事実である。こうした中で、林業経済研究が対象をどの様に捉え、どの様な視角・方法で分析し、その結果を如何に社会に発信し、貢献していくのかが問われているといえよう。

林業経済学会は、50周年記念事業として出版した『林業経済研究の論点—50年の歩みから—』において年代別研究動向と分野別研究動向をまとめた。本書冒頭の「林業経済学会50周年によせて」において、当時の学会長の餅田治之氏は「この半世紀においていわばブームのように研究課題や研究手法の消長が見られました」と述べると共に、「研究課題についてブーム的な消長があったということは、私たちの研究がそれぞれの時代における社会的要請にきちんと対応してきたことを物語る証拠です」と評価している。林業経済研究への期待が膨らむ時期だからこそ、研究の積み重ねを顧み且つ再検討しつつ、その意義や今後の在り様を議論することには価値が出てくると考えたい。

このような認識のもと、2011年春季大会の統一テーマとして「林業経済研究は森林セクターにどう貢献するか—気鋭の研究者はこう考える—」を立て、林業経済研究の蓄積を今一度振り返りながら、林業経済研究が森林、林業、林産業、山村の持続可能性の具現や発展に如何に貢献するかを学会として議論することとした。林業経済研究が対象としてきた様々な分野を考慮し、また第一線で活躍する気鋭の研究者に報告戴くのが今後にとって重要と判断し、島本美保子氏（法政大学）、三木敦朗氏（信州大学）、坂野上なお氏（京都大学）、庄子康氏（北海道大学）、栗栖祐子氏（林業経済研究所）に登壇していただくこととした。このシンポジウムにおける議論が林業経済研究の深化、そして林業経済学の発展に繋がることを切に期待する。

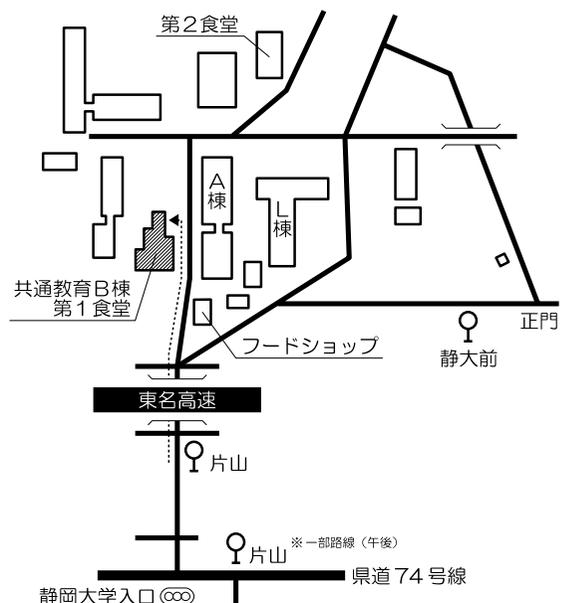
4 会場へのアクセス

大学構内の駐車スペースの関係上、自家用車でのご入構はできません。下記の公共交通機関をご利用下さい。

JR静岡駅北口バスターミナル6番乗場から美和太谷線「静岡大学行」または「東大谷行」に乗りし、「片山」で下車（約20分、280円）。

※「東大谷行」の午後の便は「片山」バス停の位置が変わります。

※バスの時刻表等については静岡グループのホームページをご参照下さい。



Journal of Forest Economics

Vol. 57 No. 1 March, 2011

Address for the Symposium in March 28, 2011

Feature Articles for the Symposium

For the Break Away from the Forestry Economics without Macro Analysis: Timber Trade and Forest Resources, Resource Allocation for the Forestry Sector of Economy in Japan	SHIMAMOTO Mihoko	3
The Present Stage of Capital and Land-ownership on Forestry	MIKI Aturo	12
Demand-Side Analysis of Domestic Timber Production and Distribution: A Review of Forest Economy Research	SAKANOUE Nao	19
Development of Studies in Outdoor Recreation in Japan: Past, Present and Future	SHOJI Yasushi	27
Review and Future Direction of Green Tourism in Japan	KURISU Yuko	37

Original Article

Process and Problems of Farmland Expansion to Forestland in Rural China: A Case Study of Village X in Tongliao City of Inner Mongolia	ZHANG Xiaohang and AN Baoquan	49
---	-------------------------------	----

Announcements

THE JAPANESE FOREST ECONOMIC SOCIETY